

2014 年 10 月 13 日から 5 日間、アメリカのオハイオ州シンシナティで行われた、[ISES \(International Society of Exposure Science, 国際曝露科学会\)](#)と、同時に行われた ECHIBCG(Environment and Child Health International Birth Cohort Group, 大規模出生コホート調査に関する国際作業グループ)のミーティングに参加しました。(メディカルサポートセンターからは石塚、目澤の 2 名が参加)

ISES では、さまざまな環境にある物質(大気中の微細粒子 PM2.5 や水に含まれる汚染物質など)をどのように測定することで人体に触れる量を正確に測れるかが議論され、大いに刺激を受けました。また、ECHIBCG では欧米各国からの参加があり、エコチル調査のような化学物質との関連を見ていく出生コホート研究が世界で始まろうとしている中、それらがどのように連携していくべきかについて、有意義な議論が行われました。会議の後、EPA (Environmental Protection Agency, アメリカ合衆国環境保護庁)にて、アメリカでの最新の研究を視察しました。

日本のエコチル調査は 10 万人の出生コホート研究として世界をリードする位置にあります。一方 ECHIBCG では、“化学物質がどのような疾患や生活と関連するのか”“世界で連携できるアウトカムの測定について”といったテーマが議論されています。我々は、エコチル調査を通して国際的に連携可能なアウトカム測定プロトコル作成していくことで、将来的に当センターでも使用可能な成育医療の測定に生かしていけるだろうと考えております。

